



イベント用テントのSG基準（公開用）

イベント用テント専門部会 委員名簿

(委員は50音順)

	氏 名	所 属
(部会長)	渡 邊 豊	東京海洋大学大学院
(委 員)	今 井 徹	一般財団法人 カケンテストセンター
	熊 本 昌 宏	一般社団法人 日本スポーツ用品工業協会
	澁 谷 聡 介	テュフズードジャパン 株式会社
	中 津 廣 志	中津テント 株式会社
	西 井 啓太郎	株式会社 ニシイテント
	野 村 昌 子	有限会社 埼玉通商
	野 本 達 也	株式会社 キャラバンジャパン
	秦 好 子	主婦連合会
	見 座 宏 昭	一般財団法人 ポーケン品質評価機構
	山 本 桂 一	株式会社 さくらコーポレーション
	山 本 雅 一	一般財団法人 日本文化用品安全試験所
	吉 田 佳 子	全国地域婦人団体連絡協議会
(関係者)	経済産業省 製造産業局 生活製品課	
	経済産業省 商務情報政策局 産業保安グループ 製品安全課	
(事務局)	一般財団法人 製品安全協会	

イベント用テントのSG基準

SG Standard for Event Tents

1. 基準の目的

この基準は、イベント用テントの安全性品質及び使用者が誤った使用をしないための必要事項について定め、一般消費者の生命又は身体に対する危害の発生の防止を図ることを目的とする。

2. 適用範囲

この基準は、イベント用テント（以下「テント」という。）について適用する。

ここでいうテントとは、イベント・展示・運動会・野外行事等において、日除け・雨除け等の目的で使用し、構造としては支柱フレーム部が折りたたみ式の一体型となっており、収納時はコンパクトサイズになるものをいう。天幕部は支柱フレーム部へ簡単に取付け可能又は全て一体型になっているものもあり比較的簡単な操作により広げてテント空間を作り出して設営できる。また、使い終われば簡単に閉じて収納できる。これらのテントを適用範囲とする。

なお、支柱フレーム部が分割組立型でパイプ等がバラバラになっていて、そのパイプ等を組み立てて使用するものは適用範囲外とする。

3. 種類

(1) テントの収納方法の種類は表1のとおりとする。

表1 テントの収納方法の種類

種類	呼称	内容
I形	一体収納タイプ	支柱フレーム部と天幕部を一体のまま折りたたんで収納するもの
II形	分離収納タイプ	支柱フレーム部から天幕部を必ず外してからそれぞれ折りたたんで収納するもの

(2) 天幕部の用途の種類は表2のとおりとする。

表2 天幕部の用途の種類

種類	呼称	内容
a形	通常タイプ	日除け、雨除けのどちらも対応しているもの（織組織のもの）
b形	超防水タイプ	a形と比較して、耐水性が特に強いもの（織組織のもの）
c形	日除けタイプ	日除け中心で雨除けにはならないが風通しはよいもの（編組織（メッシュ構造）のもの）

※ I形とII形それぞれに対して、a～c形がある。例：I-a形など全6種類あり

(3) その他：テントの間口・奥行等によりサイズ分けがあり、天幕部や支柱フレーム部の材質等によりその種類がある。

項 目	基 準	
	<p>(6) 折りたたみ機構等の可動部の作動は円滑、かつ、堅ろうであること。</p> <p>(7) 支柱の高さを調整できるものにあつては、可動部の作動は円滑、かつ、堅ろうであること。また、ストッパー等で確実に固定でき、使用中容易に外れたり、支柱の高さが勝手に変わったりしない構造であること。</p> <p>(8) 雨天時に天幕の隅等に水が溜まらない構造になっていること。又は必要に応じて、水が溜まらないような処置を施すことができること。</p> <p>(9) くい（ペグ）を使用するテントにあつては、くいの径（太さ）○ mm 以上×長さ○mm 以上の鋼製でテントの各部を確実に固定できる形状であること。</p> <p>(10) 重錘（金属製、砂袋、水容器等）を使用するテントにあつては、重錘は、十分な強度を有し、テントの支柱に確実に設営できる形状であること。</p> <p>(11) 天幕の接合部は重ね合せて縫製又は溶融されていること。</p>	

項 目	基 準	
3. 強度	<p>3. テントの強度は、次のとおりとする。</p> <p>(1) 全体の強度： 外周の各はりの中央部に、それぞれ同時にONの力を加えたとき、各部に破損、外れ及び使用上支障のある変形がないこと。</p> <p>(2) 支柱の強度 1： 支柱の床面から0mm 上方箇所に、水平方向にONの力を加えたとき、各部に破損、外れ及び使用上支障のある変形がないこと。</p>	

項 目	基 準	
	<p>(3) 支柱の強度 2 :</p> <p>支柱を床面から 0mm 上方の高さまで持ち上げ自由落下させたとき、各部に破損、外れ及び使用上支障のある変形がないこと。</p>	

項 目	基 準	
4. 材質	<p>4. テントの材質は、次のとおりとする。</p> <p>(1) I 形（一体収納タイプ）において、天幕部：防炎性、防水性を備え、及び引張強度、引裂強度、縫目強度は使用上、十分な強度品質を有していること。</p>	

項 目	基 準	
	<p>(2) II形（分離収納タイプ）において、天幕部：防炎性、防水性を備え、及び引張強度、引裂強度、縫目強度は使用上、十分な強度品質を有していること。</p>	

項 目	基 準	
	<p>(3) 支柱、はり：防錆加工がされていること。</p> <p>(4) ストッパー：金属部は防錆加工がされていること。</p> <p>(5) 重錘、くい：防錆加工がされていること。</p>	

5. 表示及び取扱説明書

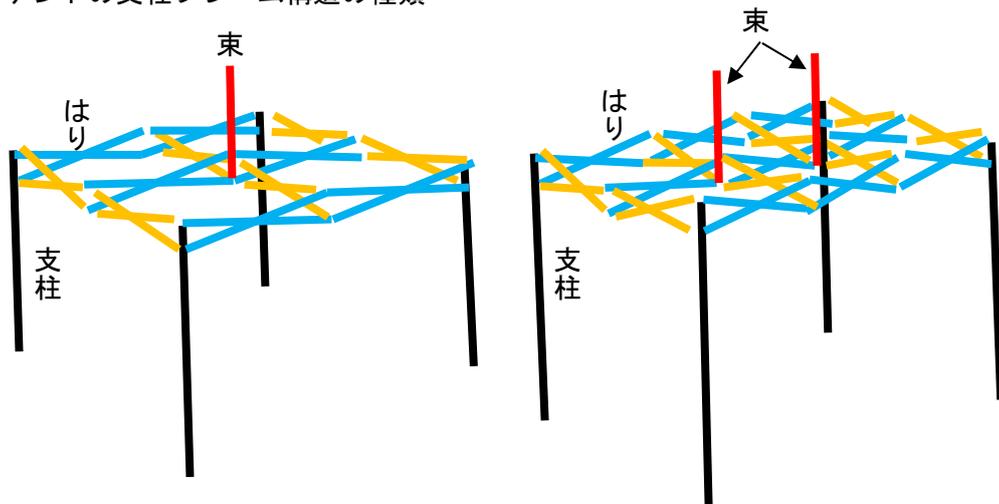
テントの表示及び取扱説明書は、次のとおりとする。

項 目	基 準	
1. 表示	<p>1. 製品には、容易に消えない方法で、次の事項を表示すること。ただし、その製品に該当しない事項については表示しなくてもよい。</p> <p>(1) 申請者の名称又はその略号</p> <p>(2) 製造年月若しくは輸入年月又はその略号</p> <p>(3) 可動部等で手指をはさまないように注意する旨</p> <p>(4) ストッパー等のロック忘れのない旨</p> <p>(5) 強風時の不使用に関する注意点</p> <p>(6) 火気取扱いに関する注意点</p> <p>(7) 天幕が防炎加工のものにあつては、その旨</p> <p>(8) II形（分離収納タイプ）にあつては、支柱フレーム部から天幕部を必ず外してから収納する旨</p>	
2. 取扱説明書	<p>2. 製品には次に示す趣旨の取扱説明書を添付すること。ただし、その製品に該当しない注意事項については明示しなくてもよい。</p> <p>なお、一般消費者が容易に理解できるよう必要に応じて、図で明示すること。</p> <p>(1) 表示及び取扱説明書は、必ず読み、それを守り、取り扱うこと。</p> <p>(2) 取扱説明書は、読んだ後は保管すること。ただし、以下の該当する各項を製品に容易に消えない方法により表示してあるものにあつては、本項を省略してもよい。</p> <p>(3) 使用上の注意</p> <p>① 使用時はテントが安定した状態であることを確認すること。</p> <p>② テントの用途以外の使い方をしないこと。</p>	

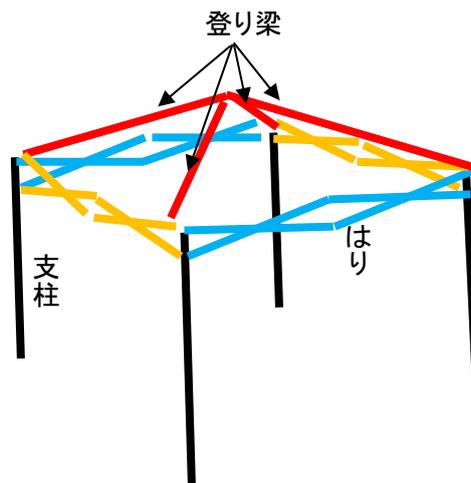
項 目	基 準	
	<p>③強風時の不使用に関する注意点</p> <p>④テントを加工したり、改造したりしないこと。</p> <p>⑤本体に表示してあるものは、故意に剥がしたり隠したりしないこと。</p> <p>⑥使用前にテントに異常がないことを確認すること。なお、異常が確認された場合は直ちに使用を中止し、必要に応じて製造業者や販売業者等にすみやかに連絡をとり、修理又は交換等の適切な処理を行うこと。</p> <p>⑦使用中、テントの周囲には危険な物を置かないこと。</p> <p>⑧火気取扱いの注意点</p> <p>⑨天幕部が防炎加工のものにあつては、その旨及び天幕部の防炎加工とは、燃えにくいことや際限なく燃え広がらないことを意味し、全く燃えないということではないこと。</p> <p>(4) 移動、設営、収納上の注意</p> <p>①移動、設営、収納時は、大人が必要人数で行うこと。その際、乱暴に扱わず、周りに注意すること。</p> <p>②安定しない場所や滑りやすい場所には、設営しないこと。</p> <p>③可動部等で手指をはさまないように注意すること。</p> <p>④すべてのストッパー等を確実にロックすること。</p> <p>⑤台や箱の上に乗せて使用しないこと。</p> <p>⑥環境に合わせて各支柱端部には質量 20kg 以上の重錘を載せるかくいを使用して固定すること。</p> <p>⑦雨ざらしにして保管しないこと。</p> <p>⑧Ⅱ形（分離収納タイプ）にあつては、支柱フレーム部から天幕部を必ず外してから収納すること。</p> <p>(5) 天幕部と支柱フレーム部の組合せが複</p>	

項 目	基 準	
	<p>数ある場合はその組合せを記載すること。なお、天幕部又は支柱フレーム部を交換する場合は必要に応じて製造業者や販売業者等に問い合わせること。</p> <p>(6) SGマーク制度は、テントの欠陥によって発生した人身事故に対する補償制度である旨</p> <p>(7) 製造業者、輸入業者又は販売業者の名称、住所及び電話番号</p>	

参考付図：テントの支柱フレーム構造の種類



参考図 1.1. 連続型の構造（イメージ図）



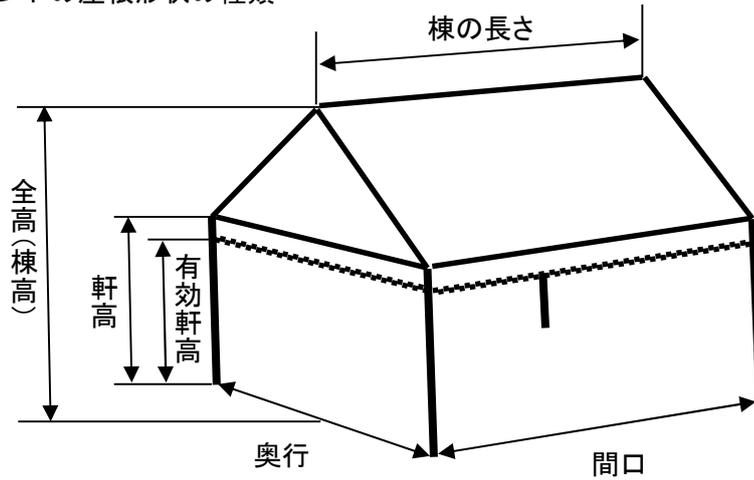
参考図 1.2. ドーム型の構造（イメージ図）

参考図の補足

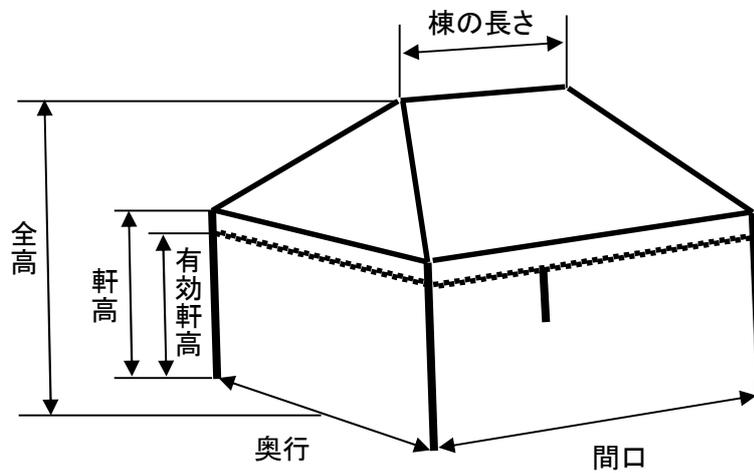
1.1. 連続型：支柱フレーム部の外周だけではなく、内側にもトラス構造のはりがあるもの

1.2. ドーム型：支柱フレーム部の外周だけにトラス構造のはりがあり、各支柱から中央の束に向かって登り梁があるもの

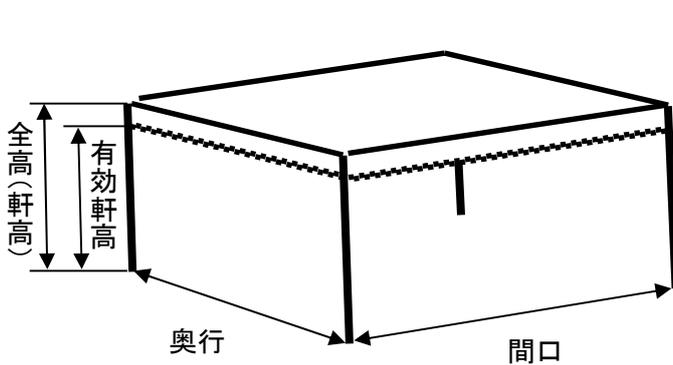
参考付図：テントの屋根形状の種類



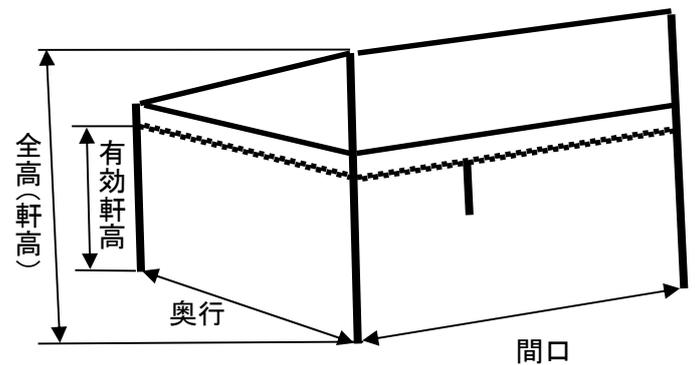
参考図 2.1. 切妻型



参考図 2.2. 寄せ棟型



参考図 2.3.1 平屋根型



参考図 2.3.2 片屋根型

参考図の補足

2.1. 切妻型：棟の左右に二つの長方形斜面と、両端に二等辺三角形の垂直面をもつ屋根形状のもの

2.2. 寄せ棟型：棟の左右に二つの台形斜面と、両端に二等辺三角形の斜面をもつ屋根形状のもの
 なお、左右二つの台形斜面が二等辺三角形の斜面の場合や円すい型の場合も含む

2.3. 平屋根型：屋根形状が平面なもの
 なお、屋根が傾いている片屋根型も含む